

笑ってごらん

第 561 号 H. 28. 10. 12 発行

～今日のことば～

勉強するから何をしたいか分かる。

勉強しないから何をしたいか分からない。

ビートたけし

◇◆ノーベル医学生理学賞を東京工業大学の隅良典教授が受賞した。隅氏は細胞のオートファジーまたは自食作用と呼ばれる分野を開拓。WEB ニュースによれば、オートファジーとはもともと細胞内で不必要になった物質を処理する過程と考えられていたが、今は免疫・老化などいくつかの現象に広範囲に作用していることが明らかになっている。特にこの過程で問題が生じれば、癌・パーキンソン病・糖尿病など、さまざまな疾患が発生するおそれがあるという。 ◆細胞には核やミトコンドリアなどのほかに「液胞」なる組織がある。「細胞内のごみ処理場」として考えられていた。細胞分裂や呼吸など細胞としての大事な活動に関わる組織のことは学校でも習うが、「液胞」の働きについては今ひとつはっきりしなかった印象がある（「理科の先生なのに・・・」と言わないで欲しい）。隅氏も同様な印象を持ったのであろうか、この「液胞」に着目した。酵母の液胞について研究する中で、液胞がアミノ酸のような主要生体物質を活発に移動させ、細胞内のイオンや代謝産物の恒常性（homeostasis）の維持に重要な役割をしていることを初めて発見。液胞は単なる副産物処理場や廃品倉庫ではなかったのだ。ここから先は流石に専門的すぎて理解がついていかなかったので割愛する。とにかく凄い発見・・・らしい。 ◇◆もう一つのノーベル賞、「イグ・ノーベル賞」。今年立命館大学の東山篤規教授および大阪大学の足立浩平教授が『股のぞき効果』研究で受賞した。東山氏・足立氏は「股のぞきをすると実際よりものが小さく見える錯視の効果」を実験で確かめ、「知覚賞」を受賞。ただ、一見くだらなさそうなテーマながら研究活動は大真面目で、東山氏は「日本の学会で何度か発表したが無反応だった。欧州ではいっぱい人が集まり反響がすごかった。イグノーベル賞については科学の成果を皆で楽しく分かち合うという試み。どれだけ楽しませてわかりやすく説明するか試された」とコメントしている。生活する中でふとした疑問に対して真面目に取り組み、楽しく研究したお二人。大切な視点を教わった気がする。 ◇◆10日（祝）、



附属鴨池しらうめ幼稚園大運動会を見に鴨池小学校へ赴いた。当初9日（日）実施予定であったが、雨天順延となったもの。例年鴨池小学校グラウンドを借りて運動会を行っているのだ。前日雨天となったために、PTA 役員の方々も 6:30 に集合して設営・準備を行ったらしい。園児たちは日頃の園庭とは異なる小学校の広い校庭にちょっぴりドギマギしながらも、笑顔でおゆうぎやかけっこを頑張っていた。中には、転んで泣き出す子、大勢の観客にビックリして固まってしまう子などいたが、それらも良い経験になったと思う。

～．．．～

感謝道

◇◆8日（土）朝、日本数学検定協会の登石理事と梅田チーフが来校。この度、「数学検定を多く受検し、成績の良い学校」に対し与える学校賞を本校がいただけることになり、その授賞プレゼンターとしてお二人がわざわざ東京からお見えになった。一方、受け手側の認識は不十分と言わざるを得ず、表彰式前に説明をお聴きして初めて「すごい賞」であることを認知した次第。事前に受賞決定通知文書はいただいていたものの、全国で3校のみとなる『グランプリ金賞』受賞という認識がなかっただけに正直うろたえてしまった。急遽代表生徒を立てて受領してもらった。兎にも角にも素晴らしい賞をいただくことができ光栄の極み。今は普通科を中心とした受検状況であるが、他学科の皆さんも英検や漢検同様どんどん受検し、自分の技量アップに活かして欲しい。